

東区、鳥山造司社長）ネクスター（大阪市城東区、鳥山造司社長）は、米袋などに使用される重包材の加工で創業し、現在の主力は食用品のテイクアウト用紙袋などの軽包材。ほかにも半導体・電子部品やメティカル用途に使用する軟包材、ゴミを捨てるために使う水切り袋なども手がける。さまざまな業界に商品を提案することで、創業112年で経常赤字がないとみられるほど財務が健全だ。

現在はクリーンルーム内で製造する軟包材に注力する。新市場開拓のため、1970年

ネクスター

半導体・医療機器向け軟包材

東区、鳥山造司社長)は、米袋などに使用される重包材の加工で食業し、現在の主力は食品のテイクアウト用紙袋などの軽包材。ほかにも半導体・電子部品やメディカル用途に使用する軟包材、ゴミを捨てるために使う水切り袋なども手がける。

さまざまな業界に商品を提案することで、創業112年で経常赤字がないとみられるほど財務が健全だ。

現在はクリーンルーム内で製造する軟包材に注力する。新市場開拓のため、1970年ス10000レベルに保

ネクスター(大阪市城

躍動

ニューノーマルを
生きる成長企業群

121

用滅菌包材は需要が増加しており、23年に袋台増設した。11月ごろにも1台増設する計画だ。今後も伸びる市場と見て、売り上げ拡大に力を入れる。

主力製品の紙袋は、テイクアウト用素材が国内の人口減の影響などで減少傾向が続くと見込む。ただ、電子商取引(EC)の増加に伴い、宅配関連で使われる紙の宅配袋の需要は広がっており、機械を更新・新設した。コメ用などの重包材

滅菌用、製造設備を拡充

ネクスターで稼働する大型ガゼット製袋機

場で取得済み。今後は「千葉工場（千葉県野田市）も25年3月までに取得したい」（鳥山社長）と意気込む。

また、消費者向け製品も注力分野の一つだ。紙袋の製造ノウハウを生かして開発した紙製の水切り袋は、販売から15年になる。中袋も紙袋も食品を入れる容器の一つ」（鳥山社長）と捉え、食品安全規格「FSS」の取得促活動もする（同）に取り組んでおり、グループ会社を含む5工場で得られる。

新型コロナウイルス

コロナ禍では家庭向け好調

投資会社の目線

【大阪中小企業投資育成事業ソリューション部・荻野直人次長】「とにかくやってみよう」を行動指針に掲げ、家庭用から食品、医療、電子部品、緑化・園芸分野まで、ニーズを先取りした「思わず新しい」商品を送り出してきた。長年、国際非政府組織（NGO）の環境保全活動を支援し、社会貢献にも精力的に取り組んでいる。

感染症の流行時は内食需要が増え、排水口や、生ゴミなどを捨てる三角コーナーに使う水切り袋など「家庭向け用品は非常に伸びました」（同）。これにより、コロナ禍でも経常赤字を免れることができた。水切り袋は排水汚染に役立つとして市場を開拓し、シェアも高い。

成長を続けるため、く。（大阪・岩崎左恵）（木曜日に掲載）